

## 関ブロ研修ツアー報告書（2026 in 長野県建築士の集い）

新潟県建築士会 青年委員長 平山貴士

### 概要

新潟県青年委員会の企画で他県の青年建築士と交流しながら、長野県でやっている建築士の集いという事業企画に参加させていただくことにした。関ブロ青年協理事会を通して、関ブロ圏内の青年委員会にオファーを出し、今回の参加を許可して下さった長野県青年女性委員会の地域実践活動発表などを行う集いに参加させていただけることとなった。

長野県では14支部全てが発表を行い、活動の発表とまち歩きという構成で集いが構成されていた。青年女性部会が全体の運営を行い、まち歩きは年毎に持ち回りで行われ、開催支部で運営するという事であった。

### 目的とねらい

従来、新潟県では15支部ある中での青年交流を行い、新潟県内での意見交換会を行っていた。新潟県内各支部での会員減少が進む中、青年建築士が集まらず県青年委員と支部青年委員長を兼任する支部も増えており、県青年の活動報告と意見交換で十分県内の情報は得られているが、実際には会員の減少を理由に委員会活動を行えない支部も出てきている。

しかし、会員減少は新潟県の各支部だけに限った話ではなく、他の都道府県建築士会の各支部でも同じことが起こり、それでも事業企画を行って活性化している支部はある。会員の質の向上のため、自己研鑽のため、建築士会全体の発展のため、どうやったら事業が行えるのか。そのヒントを得るために知識の共有を近場だけで終わらず、自県を跨いで交流することにより多くの情報を交換できる場が必要だと考えた。事業企画のヒントを得るための研修ツアーが今回の目的である。

### 情報交換の工程

新潟県内からそれぞれ各自で集合場所に集まるのではなく、大型バスを貸し切り、端の支部から順次ピックアップして目的地を目指すことにより、移動に時間はかかるが往復中に時間をかけて自県の意見交換を行う。

また、長野県で行われている建築士の集いのシステムを教えていただき、体感することで、新潟県にはない発想や運営を一緒に見学させてもらいノウハウを吸収することにした。

## 関ブロ研修ツアー報告書（2026 in 長野県建築士の集い）

支部名：新潟

作成者：神田 さやか

### 事業企画について

長野県建築士会での地域活動について多くの学びを得ることができた。特に印象的であったのは、最優秀賞の「中学校出前授業」の取り組みである。空き家問題をテーマに、生徒がまち歩きを行い、実際の建物を観察したうえで図面化し、活用方法を考え発表するという内容で、地域課題を学びながら建築への理解を深めることができる教育活動となっていた。この取り組みは8日間・16コマのプログラムで、中学校からの依頼によって実施されたとのことであるが、新潟においても、建築士会から学校へ出前授業を提案する形で実施できる可能性があるのではないかと感じた。必ずしも長時間・長期間の授業でなくとも、学生が建築に興味を持つきっかけとなるようなテーマやプログラムを検討していくことが重要だと思う。また、地域実践活動発表後には、上諏訪駅周辺の酒蔵を巡るレクリエーションが行われ、参加者同士の交流を深める良い機会となっていた。新潟でも地域の特色を生かした企画や、開催地を各支部で持ち回りにするなどの工夫を取り入れることも有効ではないかと感じた。



### 青年委員会との交流について

懇親会では隣席に優秀賞を受賞した支部のメンバーがおり、活動内容について話を伺うことができた。最優秀賞を逃したことへの悔しさを口にしながらも、自分たちの取り組みについて熱意をもって説明してくださり、活動に対する強い思いが伝わってきた。その熱量に触れ、自分自身も同様の思いを持って活動に取り組むことの大切さを改めて感じた。2日目には青年委員メンバーで建築家の藤森照信氏による建築群を見学した。独創的な建築を間近で見られたことは、大きな感動とともに貴重な学びとなった。見学の際には、構造や仕様などについて自然と意見が交わされ、参加者それぞれが建築に強い関心と情熱を持って向き合っていることを改めて感じる機会となった。なお、バス移動中にも交流が行われていたが、(今回も)乗り物酔いのため十分に参加できなかつたことが心残りであった。



## 関ブロ研修ツアー報告書（2026 in 長野県建築士の集い）

支部名：新潟支部

作成者：平山 貴士

### 事業企画について

長野県建築士の集いは、13支部の発表によって関ブロぐんま大会第一分科会発表者を選ぶ会議がメインであった。また、まち歩きを行って会場であるまちの魅力を伝えることをしていた。当日参加者は72名、懇親会参加者は59名。青年女性併せて17名で運営していた。



結果発表では優秀賞は飯伊支部の学生と一緒に学校のトイレの改修事業を行なった発表であった。最優秀賞は「ながの支部」の中学校に出前授業を行なった活動であった。

### 青年委員会との交流について

まち歩きをしている際に諏訪支部の青年委員の方と交流する機会があった。その時は、持ち回りで集いを開催する場所を回している事。担当した支部がまち歩きを企画すること。企画によって支部での交流が生まれ活動が少し活性化することを教えてもらった。事業企画自体はコンパクトにまとめられており、集いに基本参加しない人も、自支部でまち歩きがあると参加することもあるようだった。



まち歩きは諏訪駅前酒蔵3つを回るコースであった。それぞれの街並みを見ながら歩き、酒蔵の発展した形と現在作っているお勧めの品種を堪能するコースを諏訪支部の案内で回る企画であった。2日目も新潟県青年委員で諏訪の建築物巡り及びまち歩きを企画し、諏訪神社の周りを重点的に回り、気候も含めて新潟とは違う街並みが勉強になった。集いでは新潟とは違う運営方針に、簡素にすべきところが見つかり、一体感含め参考すべきところが多い関ブロ研修ツアーであった。

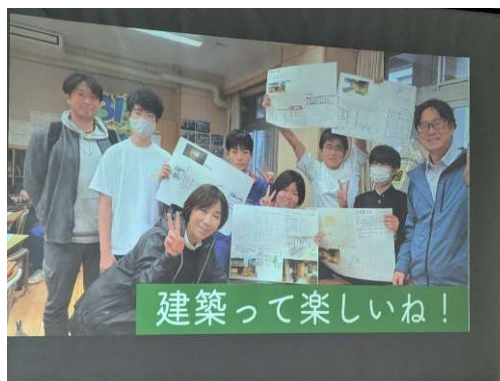
## 関ブロ研修ツアー報告書（2026 in 長野県建築士の集い）

支部名：三島郡支部

作成者：藤井 貴之

### 事業企画について

長野は関ブロぐんま大会第一分科会発表者の選考会を兼ねており、参加者は72名（懇親会59名）でした。発表の多くが、木を知り、遊び、木を使ってまちに居場所をつくるなど、木育を起点に建築・建設を伝える事業であり、自支部でも大変参考になる内容でした。新潟県でも進行している「つなぐプロジェクト」等と建築士会がコラボレーションを図るのも面白いのではないかと考えて



います。また、新潟との決定的な違いは、全支部が強制的に「7分間」の発表を行っていた点です。懇親会で伺ったところ、数年前からこのルールを導入した結果、発表を行うために日々の活動自体が活発になったとのことでした。新潟県でも来年から全支部7分発表の導入を提案します。懸念される資料作成の負担については、AIを活用して数分で資料を作成するレクチャー等を実施し、会員が「どんな活動をし、何に繋げるか」という企画・運営の根幹に力を注げる仕組みを作りたいと強く感じました。

### 青年委員会との交流について

私自身まち歩きは初めての経験でしたが、地域の建物を見て触れ、背景にある理由を推察しながら歩くことは非常に楽しいものでした。案内を担当された諏訪支部の青年委員の方に伺うと、担当支部が自ら企画することで支部内の交流が生まれ、活動の活性化に繋がっているとのことでした。自支部開催の身近なまち歩きであれば、普段は参加しない層も気軽に参加しやすいようです。



長野と新潟の街並みの違いはもちろん、運営方針においても、事業をシンプルにして参加ハードルを下げる工夫など考慮すべき点が多数見つかった有意義なツアーでした。さらに、2日目の研修ツアーを通じて、新潟県青年委員会の人々とも親睦を深め、より結束を強めることができたことも大きな収穫でした。

## 関ブロ研修ツアー報告書（2026 in 長野県建築士の集い）

支部名：中魚沼支部

作成者：水落 力也

### 事業企画について

長野県建築士の集いでは13支部からの活動発表があり、支部での会員の親睦・自己研鑽事業や子ども向けの体験イベントや、学生に自校のトイレ改修の計画立案授業等多岐にわたる活動が発表された。



長野県もこの集いで、関ブロ発表者の予選会も兼ねているが、各支部から1名審査員を出し、審査員の合計点で最優秀賞を決める形式であった。これは今年度の関ブロ群馬大会とほぼ同じ選考方法であり、より本番を意識して選考していると感じた。

### 青年委員会との交流について

長野県では「青年」と「女性」が一緒の委員会に属しており、新潟県より委員会の数は少ないようであった。委員会数を少なくすることで、予算配分を抑えられ必要な事業に配分できるといったメリットがあると感じた。また、青年だけでは思いつかない女性ならではの活動や意見も反映され、事業の種類も増えていくのではないかと感じた。

### その他

2日目は諏訪市内に藤森照信氏が手掛けた建築物群の見学と諏訪大社の参拝を行った。

藤森氏の建築は小規模ながらも、化粧の梁材を奥に行くほど細くすることで室内をより広く見せるといった工夫があり、緻密な設計があることに驚い



た。また、諏訪大社の参拝では、当初の予定になかった「前宮」と「本宮」の両方を参拝しようとなったが、想定よりも遥かに遠く、相当な距離を歩ことになったが、その分お参りした時の達成感はひとしおであった。

長野県の会員や自県の青年委員と多くの時間を過ごすことができ、貴重な体験ができたツアーであった。

## 関ブロ研修ツアー報告書（2026 in 長野県建築士の集い）

支部名：長岡支部

作成者：間 翔平

### 事業企画について

令和8年2月28日に開催された「長野県青年・女性建築士の集い」へ新潟県建築士会青年委員の9名で参加してきた。地域実践活動報告では13支部の発表があり、学生向けの小椅子製作ワークショップや中学校への出前授業、積木を用いた木育活動など各支部が様々な活動を報告していた。優秀賞を受賞した「ながの支部」の出前授業



では中学生に対し、16コマの授業数の中で街歩きを通して空き家を見つけ、その空き家のリノベプランを中学生が提案、発表する学生と地域の問題について考えていく魅力的な事業となっていた。13支部の活動報告の中で、最優秀賞と会場賞を受賞したのが「飯伊支部」の学生と協同で学校のトイレ改修事業を行った発表だった。また、地域実践活動発表と表彰式の間には酒蔵めぐりも企画されており、参加者が街歩きをしながら日本酒の試飲ができ会員同士の交流が活発に行われている様子が見られた。

### 青年委員会との交流について

大懇親会には際には他の参加者と交流の機会もあり、その際に長野県建築士会では集いの会場が毎年各支部での持ち回りで、今年のように駅前に会場が確保できて酒蔵めぐり等のイベントができる地域であれば良いが、そうでない場合は企画、運営が難しいとのことだった。反面、長野県は面積が広く、降雪の量や風土によってさまざまな地域特性があるので、集いをきっかけに地域の歴史や魅力を感じられる良い機会になっているとの声も聞けた。2日目は建築家・藤森照信氏の建築群の見学をし、近隣を散策しながら県青年委員同士での交流ができ、さらにつながりを深められた。



2日間を通して新潟の集いとの違いや参考にすべき部分を体感できる実りの多い関ブロ研修ツアーとなった。

## 関ブロ研修ツアー報告書（2026 in 長野県建築士の集い）

支部名：南魚沼支部

作成者：井口 隆太

### 事業企画について

長野県で開催された建築士の集いは、名称の通り主に青年および女性建築士を対象としたものであった。県内全13支部による地域実践活動発表の中から、関ブロぐんま大会第一分科会の代表を選出する選考会がメインプログラムとなっていた。発表後には、酒のまち諏訪ならではの酒蔵めぐりが企画されていた。



発表内容では、支部内でのイベント出展、中学校での出前授業、学生と協働したトイレ改修事業などが特に印象に残った。また、関ブロ東京大会で実物を見学した「つみき」や「まちなかりビングルーム」の報告もあり、より詳細な説明を聞くことができ、大変参考になった。

メイン会場から徒歩15分圏内に5つの酒蔵が集まっている立地を活かし、前半の地域実践活動発表と後半の酒蔵めぐりを効率よく組み合わせた運営がなされていた。

### 青年委員会との交流について

酒蔵めぐりでは、開催地である諏訪支部のメンバーが各酒蔵を案内しており、短い時間ではあったが交流の機会があった。毎年の会場が各支部の持ち回りであるため、諏訪のように特色ある地域は企画しやすい一方、そうでない支部にとっては受けることが難しいという実情も伺った。

2日目は、新潟県青年委員で諏訪大社周辺を歩いて巡った。まず、当地出身の建築史家・藤森照信氏の建築群を訪問し、デビュー作である神長官守矢資料館をはじめ、空飛ぶ泥舟、高過庵、低過庵、高部公民館を間近で見ることができ、大変有意義な時間となった。



2日間を通じて、県青年委員の一体感を強く感じるとともに、メンバー各位の個性を改めて認識する機会となり、非常に充実した時間であった。

## 関ブロ研修ツアー報告書（2026 in 長野県建築士の集い）

支部名：北魚沼支部

作成者：郷 拓郎

### 事業企画について

長野県建築士の集いでは13支部からの活動発表があり、屋外での架空骨組みあらかしリビング体験イベントや学生との自校のトイレ改修の計画立案・完成と計画の確認など、どの事業にも共通して一度だけではなく数回に分けて参加者をつながりをつくることで、設計の奥深さ、楽しさを感じていただく、本来伝えたいことの目的に沿った素晴らしい内容でした。また各支部から1名審査員を出し、審査員の合計点で最優秀賞を決める形式であり落選した方は、今年こそは！と意気込んでいたようでとても悔しがる姿から、真剣な活動であったことが十分伝わってきました。



### 青年委員会との交流について

長野県は東西南北に広く大きく支部間で遠くても3~4時間の距離だと聞きました。その中で各地域の特色や毎年の交流を継続することで、少しずつでも発展を続けてこれたんだろうと勇気と活力を頂きました。また「青年」と「女性」が一緒の委員会に属していることは、各支部からの出向者も増えるとは思いますが、支部での結束力・情報量を高めるメリットを感じ、その結果、青年と女性での相乗効果が期待でき、新しい発展につながる気がしています。

### その他

2日目は諏訪湖の風と音を楽しんだ後、近くの藤森照信氏が手掛けた建築物群の見学と諏訪大社の参拝を行った。藤森氏の建築は小規模ながらも、勾配天井を活かして壁を垂直ではなく寝かせることや化粧材の寸法を調整することで奥行き感や柔らかさを表現していて参考になったがどこまで真似できるか……。長野県の会員や自県の青年委員と多くの時間を過ごすことができ、貴重な体験ができたツアーであった。

